

## 病気の子どもたちに配慮したいこと

### 3 支援のポイント その1

#### それぞれの病気についての正しい理解をもち、適切に対応することが大切

##### ★病名を知っているだけでは不十分★

病名が同じであっても、症状や治療の仕方などは当然ながら一人一人違います。

気を付けなければならない症状、体調の悪いときの対処の仕方、服薬や処置の仕方、運動や食事の制限などをしっかりと把握しておくことは必須となります。さらに、把握した情報をもとに、一日の学校生活の流れの中で、どの場面でどういう配慮が必要かを整理します。

病気の子どもに関わる周囲に対して「病気だから仕方ない」の一言で、周囲の理解を得ることは難しいです。配慮が必要な事柄について周囲の子どもや先生方に、担任として適切に説明できるように、より分かりやすい言葉で具体的に伝えることが大切です。どの程度まで説明するかについて、事前に本人や保護者の意向を確認しておくことも重要です。

また、本人の、そして保護者や家族の病気の理解がどのような状況なのかについて把握することは、適切な支援をするために欠かせないことです。その際に気を付けたいことは、良かれと思って配慮したことが、かえって本人や家族の負担になっていたり、周囲の誤解を招いてしまったりといったこともあるということです。本人や家族の思いを聴くことが、よりよい支援につなげる第一歩となることを肝に銘じたいものです。

##### ★チームで対応★

保護者の了解のもとで主治医と連絡を取り合い、支援や配慮事項について検討していく際には、特別支援教育コーディネーターを中心に学級担任や養護教諭などの校内連携が重要です。チームで課題を共有し合うことは、健全な学級経営につなげる近道ともなります。

##### ★プライバシーへの配慮★

病気に関すること（病名も含めて）は、治療や処置の内容、服薬の情報（服薬名も）など全て守秘義務がある個人情報（最も秘匿性が高いものの一つ）です。子どもとの会話だけでなく、教師間や保護者との会話、文書への記載なども慎重に行うべきです。周囲への子どもたちや他の保護者への伝え方など、「だれに」「どこまで」「どのように」伝えるかについて、事前に本人や保護者の意向を確かめておきます。「どのような言葉で」「どう説明したらよいか」を、本人や保護者と一緒に考えることも大切にしたいことです。

病気に関わる情報については、基本として『他の子どもたちには、本人が知っていること以外の病気に対する知識を与えない』ことです。本人に対して、病気や治療に関わる情報がどのような言葉で説明されていて、どのように受け止められているのかを知っておくことが前提ですし、他の子どもや周囲にどこまで伝えるかについては、本人・主治医・保護者の間で決定されます。決定された内容以外の話をしないことが、当然ながら担任にも強く求められていることとなります。何気ない質問や善意のアドバイスにも、心を痛めている子どもや家族がいることに留意します。また、医療に関わる場合は養護教諭との連携も大切です。